

アニメーション作品の聖地巡礼と地域文化の創成 — 『花咲くいろは』と「湯涌ぼんぼり祭り」を事例として—

池島 由希

近年、アニメーション作品のモデルとなった場所へ視聴者が現実に訪れるという「聖地巡礼」が多く見られるようになってきている。こうした「聖地巡礼」は、地域振興の方策としても注目されているが、長期に渡って、実際の事例を元に、その効果や意義を調査し、分析した研究はほとんどおこなわれていない。

本研究は、この「聖地巡礼」に着目し、2011年に放送されたアニメーション『花咲くいろは』とその舞台となった湯涌温泉で、同年に創設された「湯涌ぼんぼり祭り」を事例として取り上げ、「聖地巡礼」と地域文化の創成について、調査・分析し、考察した。

研究方法は、文献調査と実地調査、およびそれらの複合的な分析である。文献調査は、『花咲くいろは』に関する資料、舞台である石川県金沢市湯涌温泉街の観光動向に関する資料を中心におこない、実地調査は、2019年7月21日(日)第9回湯涌ぼんぼり祭り点灯式と2019年11月2日(土)第9回湯涌ぼんぼり祭りを対象として実施した。

その結果、次のことが明らかになった。

1. 「湯涌ぼんぼり祭り」の来場者は、2011年の初回以降、2017年まで、右肩上がりが増え続けた。2018年と2019年は台風の影響により減少したが、なお、初回時の1.6倍の人が来場した。このことは、客層が、単身若年層だけでなく、カップルや家族連れなどさまざまな層に渡ることや、物品の販売がアニメーション関連のグッズよりも地元の名産品（地域グルメ）にシフトしていることと合わせて、「湯涌ぼんぼり祭り」が、地域に定着したことを示している。

2. 「湯涌ぼんぼり祭り」はアニメーションの忠実な再現を続けている。その一方、広報媒体からはアニメの絵柄が消えており、最初はアニメの中から生まれた祭りが、地域の名物になってきたということが、ブログのコメント等からも示されている。こうした聖地巡礼と地域文化の両立は、「温泉総選挙」で、2018年に歴史・文化部門第5位を受賞すると共に、「日本のアニメ聖地 88（2019年版）」に選出されたことにも示されている。

3. 聖地巡礼と地域文化が両立していることの背景には、『『アニメで町おこし』という意識を過剰にもつことなく、ファンを一般の客として迎え、ファンサービスと商売の線引きをして、安易な金儲けはしない』という方策(畠山 2012)の長期的持続が介在している。

本研究は、アニメーション作品『花咲くいろは』に基づいて発案された「湯涌ぼんぼり祭り」を題材にしたものではあるが、本研究の成果は、「湯涌ぼんぼり祭り」が地域振興の代表事例とされていることから、その他多くの聖地巡礼と地域文化の創成に対して有効な知見を提供するものと考えられる。今後、本研究に基づく、聖地巡礼と地域文化創成による地域振興方策の普遍的な研究が期待される。

(指導教員 辻泰明)